

### 編集後記

第117回日本医史学会総会・学術大会が、2016年5月21日・22日に広島県医師会館にて開催されました。実行委員会のみなさまのご尽力にたいして厚くお礼申し上げたいと存じます。

今回は、オバマ米大統領の広島訪問(5月27日)の直前ということもあり、世間の耳目が広島に集まりつつあるなかでの学術大会でもありました。外交セレモニーに関連しての世間の注目は一過的なものですが、原爆とその被害にかんする情報を広く、そして長く伝えていくためには、史資料をどう保存し利用をはかっていくかが重要であることについて、今回大会で広島・長崎に関連するご発表を伺いながら、あらためて考えさせられました。

大会では、他にも多様な演題の興味深いご報告を伺うことができました。とはいえ、やはり学会当日は発表や質疑応答の時間に制限があるということで、聴衆の一人としてはもっと詳しく伺いたいと思ったりもしましたし、報告者からすれば十分に説明しつくせなかったこともおありだったことと思います。ぜひフル・ペーパーの本誌へのご投稿もご検討いただければと存じます。

(永島 剛)